
法？学園？ほのぼの？異世界？日常？恋愛？探偵？勇者？魔王？天使？悪魔？もうなんでも良

IKA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今回は魔法？学園？ほのほの？異世界？日常？恋愛？探偵？勇者？魔王？天使？悪魔？もうなんでも良いよ！！

【Nコード】

N0599BA

【作者名】

IKA

【あらすじ】

とある高校の生徒会室に、彼らは集まる。求めるのは、この作品の物語りを何にするか！？この物語は、様々な作品の原キャラが度々参加しつつ、この作品の方向性を決めていく、無計画作品。さあ、物語りを作る物語りが始まります。

まずはどんな作品にするかだろ!!

早速皆で自己紹介だ!!!

相良「ども！高校3年生の相良翔です!!」

朝我「同じく高校3年生の朝我零です!!」

土屋「更に同じく高校3年生の土屋和宏!!」

谷島「同じく高校3年生の谷島芳樹だ!!」

音使「一年後輩の高校2年生の音使奏多です!!」

ヴァン「高校1年生のヴァン!!スカイです!!」

ルチア「そして女性人の説明！私、ルチア!!ダルクは高校3年生!!」

リオナ「リオナ!!カミナだよん よ・ろ・し・く!!」

スイエル「ヴァンの妹のスイエル!!スカイです!!」

相良「てなわけで始めましょう!!」

この小説の内容について!!

相良「……え？決まってるの？」

朝我「普通は内容決めてからの小説……ではなかったか？」

ヴァン「作者がサボったから僕たちがやらないといけないみたいですよ？」

谷島「まる投げかよ……」

土屋「めんどくせ〜」

音使「まあ偶にはいいんじゃないか？」

ルチア「というかさ……」

リオナ「うん……」

スイエル「……」

ルチア・リオナ・スイエル「女子の人数少くない!?!?!」

相良「じゃあ会員募集でもするしかないよなあ……」

さてさてそんなことは後にして、早速会議スタート!!

相良「って始めたのはいいのだが……」

ルチア「まずはどんなストーリーにするかよねえ」

ヴァン「やはりここは魔法系で行くのが普通かと?」

朝我「いや、魔法は沢山あるからあえて別の考えもあるだろ?」

音使「例えば?」

朝我「恋愛学園モノでも良いし、探偵モノもあるんじゃないかな?」

相良「さて、ヴァン潰しはここまでにして、普通に決めよう」

朝我「いやホント、内容どうする？この第一話は確か内容決定で次回に活動するはずだったよな？」

相良「うん・・・そうだね」

土屋「大丈夫か？」

谷島「ダメじゃね？」

ルチア「それじゃ私達で何とかしないとダメね!!」

リオナ「じゃアイデアあります!!」

相良「まあ出すだけ出すか。どうぞ」

リオナ「やっぱり迫力！アクションが大切!!てなわけで星が入ったボールを7つ集めるとなんでも願い事が叶う内容はどう!？」

谷島・土屋「改!!!」

相良・朝我「却下だ」

谷島・土屋「(; ;)」

ルチア「でもその前にタイトルを決めたらどう!？」

音使「そうですね。タイトル長すぎですし」

相良「それじゃ『はがない』みたいに短くするか？」

朝我「『今回は魔法？学園？ほのぼの？異世界？日常？恋愛？探偵？勇者？魔王？天使？悪魔？もうなんでも良いよ!!』略して『今^{こん}でも』か？」

リオナ「『今でも』の真ん中に『』を付けようよ!!」

『今でも』

全員「『『『『『『『』却下!!!!!!!!』』』』』』」

リオナ「それじゃその『』を7つ集めるとなんでも願いが叶う物語!!」

谷島・土屋「『レボリューション』」

相良「だから却下だって!!!!」

朝我「いい加減学べ」

谷島・土屋「ハイ（；；）」

スイエル「でも……やっぱり何にするの？」

ルチア「百合でいく？ホモでいく？」

相良・ルチア「どれも却下!!!!!!!!!!!!!!」

音使・ヴァン「はぁ（；；）」

朝我・ルチア「（ぜ……全然進まない……）」

相良「やべ……終わりの時間がやってきた」

全員「」「」「」「」「」(. g .)うそーん!!!!!!!!??.?.?」「」「」

相良「内容が決まらないままなので次回も会議だ!」

全員「」「」「」「」「」(終わるかな・・・)」「」「」

ゲストがあったりするけれど、やっぱり必要なのはコミュニケーションだと思っ
この日もまた、生徒会室には前回と同じメンバーが・・・

ヴァン「あれ？先輩は？」

相良翔が何故か不在だった。

ルチア「あれえ・・・HRホームルームの時にはいたんだけどな・・・」

と言いつつも何名かは前回からの課題である、『小説の内容』につ
いて会議をしていた。

朝我「やはりここは探偵ものじゃないか？」

谷島「いや、あえて恋愛ものだろ!？」

土屋「どっかのギャルゲからネタを引っ張ってくればいいんじゃない
いか？」

スイエル「だったら私とお兄ちゃんの兄妹愛を!！」

ヴァン「だからダメだつてば!！」

リオナ「だったら私とヴァンでSとかMとかの内容を」

ヴァン「だから駄目だつてば!!!」

そんな荒れた会議を何故か生徒会室で行なっている。

音使「でもやっぱり何かきっかけが欲しいな」

谷島「例えば？」

音使「そうだな・・・まあ俺たちみたいな今は平凡な高校生だけど、突然魔法の世界から女の子が現れるとか？」

ヴァン「そ、そんな現実離れたことがあるわけ」

相良「あ、ごめん！遅くなった！魔法少女連れてきたぞ!!」

なのは「初めまして！高町なのはです！」

全員「……………」

相良「あ……あれ？」

遅刻してきたIKA作品の主人公である相良翔。

だが、その彼は予想外の人間を連れてきてしまった。

ヴァン「音使先輩。尊敬します」

音使「あ、ありがとう」

相良・なのは「？」

そして魔法少女である高町なのはを混じえて、再び会議を始めるのだった。

相良「まあコンセプトとしてやっぱり王道であるリリカルなのはしかないだろうって思ったんだ！」

なのは「あの・・・私は何をすればいいのかな？」

相良「いや、取り敢えず魔女服のままでもいいよ」

なのは「あ・・・はあ・・・」

朝我「それで？連れてきたまではないが、俺たちが魔法使えなきや意味がないぞ？」

相良「あ・・・」

全員「「「「「うわぁ・・・なんとなくわかってたけど・・・」

相良「すみません。高町さん、お帰りください」

なのは「え!?(。°。——)」

相良「折角お越しいただいてなんですが、もう終わりです」

なのは「……………」

すると、なのはからどす黒いオーラが流れ出てきた。

なのは「翔君……………少し……………お話……………しよ」

相良「え……………ギヤ」

ここからは音声のみでお楽しみください。

バキッ、ボキッ、ガッツ、カキーン、チュドーン！……！！！！！！！！

全員「……………」

なのは「はあ〜スッキリした。それじゃねー！」

そう言って彼女は出ていった。

ヴァン「あの・・・先輩、大丈夫ですか？」

相良「・・・あ、ああ。ギリギリな」

そう言って焦げた状態の相良翔は立ち上がり、会議を続ける。

リオナ「やっぱり新年でみんな新鮮な気持ちなんだからさ、こころ新しい発想が必要なんじゃないかな？」

ヴァン「おお・・・珍しくリオナがしっかりとした発言を・・・」

スイエル「私もビックリ」

リオナ「スカイ兄妹はどれだけ私の事低い評価で見てるのよ」
「・・・」

谷島「新しい発想って言っても、皆が皆いろんなのやってるから浮かばねえ」

土屋「ばくらない？」

相良「逃げたよこの人（・・・）」

リオナ「やっぱり のついたボールを7つ集めようよ!」

全員「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

リオナ「(、；；；(」

ルチア「うん・・・やっぱり男女が楽しめる恋愛が一番じゃないかしら？」

相良「そんじゃやってみるか」

スイエル「お兄ちゃんはあげないよ……!」

相良「いらない……!」

ヴァン「え……(; ;)」

相良「あ……いや、そういう意味じゃなくてだなく、
ノ」

ヴァン「冗談です」

相良「え……じゃなんで?」

ヴァン「そう言えって台本に……」

相良「……OTZ」

ルチア「今回は翔が台本の被害者ね」

朝我「とにかく、シミュレーションは別の内容だな」

土屋「だったら……」

ルチア・スイエル「（；；；）」

相良・ヴァン「（、）ハア……」

朝我「だから……普通のをやれって」

谷島「百合は男性向けであって女性向けじゃないだろ？」

土屋「そうだった（-_-;）」

音使「いい加減男女でやらないのかな……」

スイエル「こ、今度は私のアイデアを……！」

こんな、たった二人だけ・・・賑やかな生活だった。

でも・・・どうしてだろう。

僕は、スイエルの事を・・・一人の女の子として見るようになった。

スイエルは可愛い。正直、自慢の妹だ。

妹が他の男子と話している所を見ると、不安になる。

それは、相良翔先輩とて同じことだった。

これは・・・やっぱり・・・

ヴァン「な、なあスイエル？」

スイエル「ん？」

ヴァン「その・・・大事な話しが、あるんだ」

スイエル「うん」

そして僕は言った。

ヴァン「僕・・・スイエルの事が・・・好き」

スイエル「・・・そ、それは　　んっ!？」

気づくと俺は、スイエルの唇を奪っていた。

スイエル「んふ・・・ん・・・」

ど」

相良・朝我「ヴァン・ドンマイ」

相良「あ・・もう時間（ー・・）」

全員「「「「「えっ!?またっ!?」「」「」「」

相良「悪いな。今日はこれで解散だ」

「ついでに俺達は各自、下校していった。」

相良「さて・・・と」

俺は一人残り、皆が色々やらかした生徒会室を片付ける。

皆は先に下校した。

まあ片付けは部長の役目だからな。

相良「片付いたし、帰るか」

そう言って生徒会室の鍵を閉めて、俺は下駄箱で靴をはきかえて、門まで向かう。

相良「あ・・・ルチア」

ルチア「待ってたよ翔」

相良「・・・そうか。そんじゃ、一緒に帰るか」

ルチア「うん！」

そう言って俺とルチアは手を繋いで、通学路を歩く。

ルチア「翔、もう高校3年生だけど、進路は決まったの？」

相良「進路か・・・まあ将来は決まったかな？」

ルチア「何？」

相良「ルチアの婿になること。そこで、ルチアと結婚して子供作って家族を作ろうかになって」

ルチア「っ／／／／／／／／／／」

そんな、なんの迷いもなく言う彼を、彼女は顔を真っ赤にしながら喜ぶ。

相良「ルチアは、進路はどうするんだ？」

ルチア「……私は、翔と一緒にいられたら……それでいいかな
！」

相良「……はは、そりゃいいや」

そう言って二人は仲良く家に帰っていくのだった。

ゲストがあったりするけれど、やっぱり必要なのはシミュレーションだと思っ

朝我「最後の二人の姿を小説の内容にすればいいじゃん」

音使「だよな」

IKA「そう言えばヴァンは？」

コロナ「ヴァン君!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

ヴァン「いゝめんど!!!!!!」

コロナ「う、浮気は許さないんだから!!!!!!!!!!!!!!」

ヴァン「ぎゃああああああ!!!!!!!!!!!!!!」

IKA「ヴァン……ドンマイ」

次回予告

浮気がバレてコロナと喧嘩するヴァン。

二人の仲は良くなるのか!?

君は、生き残ることが出来るか？

ヴァン「違う違う」……「……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0599ba/>

今回は魔法？学園？ほのぼの？異世界？日常？恋愛？探偵？勇者？魔王？天使？

2012年1月2日07時46分発行